

海街 d i a r y

観賞日 2017・9・25

制作 2015年6月公開

上映時間 126分

監督 是枝裕和

脚本 是枝裕和

原作 吉田秋生

出演 綾瀬はるか、長澤まさみ、夏帆、広瀬すず、大竹しのぶ、樹木希林、風吹ジュン
リリー・フランキー、堤真一、加瀬亮、鈴木亮平

受賞 日本アカデミー最優秀作品賞受賞。毎日映画コンクール主演女優賞(綾瀬はるか)、
女優助演賞(長澤まさみ)。

(あらすじ)

鎌倉の古くて、広い家に長女幸(綾瀬はるか)、次女佳乃(長澤正美)、三女千佳(夏帆)の三姉妹が住んでいる。14年前、父親は家を捨てて他の女と去り、母(大竹しのぶ)も再婚して北海道に移った。残された三人の姉妹は、祖母に育てられたが、7年前に祖母も亡くなり、しつかり者の幸が親代わりとなって、佳乃、千佳の三人で暮らしている。ある夏の朝、三姉妹のもとに山形に住んでいた父の訃報が届いた。三姉妹は父の葬儀で訪れた山形で、中学生の腹ちがいの妹すず(広瀬すず)と出会う。すずの母親はすでに亡くなっており、父は三度目の結婚をしていた。すずは葬儀の際は気丈に振舞っていたが、見送りにきた寂しそうなすずに幸は思わず「鎌倉でいっしょに暮さない」と声をかけるのだった。

秋の訪れとともにすずが引っ越してきて、四姉妹の生活は和やかに始まった。看護師の幸は仕事一筋だが、医師の椎名(堤真一)という恋人がいる。しかし、椎名には精神を病んだ妻がいた。佳乃は信用金庫に務め、年下の学生、藤井(坂口健太郎)と交際している。千佳は勤め先のスポーツ店の店長(池田貴史)といい仲である。すずは地元のサッカークラブに入団し、すぐチームに溶け込んだ。

翌年の6月梅雨が訪れた頃、長い間、音沙汰のなかった母親(大竹しのぶ)が祖母の七回忌に現れ、急に鎌倉の家を売ろうと言い出した…

(解説)

海街＝鎌倉に住む四人の姉妹の物語が、日記のように淡々と綴られた映画である。吉田秋生の人気漫画『海街 diary』が2007年に刊行された際、第1巻を読んだ是枝監督がこの作品に魅了され、映画化を決意し、8年後、その実現をみたという是枝監督の執念の作品である。

この映画の魅力は、四姉妹に綾瀬はるか、長澤まさみ、夏帆、広瀬すずと旬の女優を揃え、是枝監督が四人の個性をきちんと描き分けたことと、女優陣がその期待に応えたことである。そして、海街＝鎌倉の四季の移ろいをドラマの背景として十分に生かしたことにある。しらす漁の解禁、春の桜のトンネル、極楽寺近辺のアジサイ、夏の海岸での花火、秋の衣張山(きぬばりやま)、獅子舞の紅葉狩りなどが彼女たちの生活を彩っている。